

宝本エピソード

鹿児島県立図書館 企画展示「宝本エピソード展」より

展示期間：平成27年12月5日（土）～平成28年1月20日（水）

募集期間：平成27年6月12日（金）
～平成27年9月10日（木）

募集対象：県民一般（幼稚園，学校，公立図書館を通じて募集）

（一般応募の部より）

母		子	<p>【エピソード】</p> <p>我が家の宝本は、「いないいないばあ」です。娘が生まれた時、先輩ママさんがプレゼントしてくださいました。その方も、子どもさんを出産した時にお友達にいただいたそうです。</p> <p>絵本をめくるたびに娘が笑ってくれるのですが、その表情が一ページめくるごとに違うので、それがかわいくて毎日読んで聞かせていました。主人も娘が「きゃっ きゃっ。」と喜んで笑ってくれるので、私が読んだ後に読んであげていました。</p>
母		子	<p>【エピソード】</p> <p>「エルマーのぼうけん」は、娘が一年生、息子が幼稚園の年少の時に会いました。眠る前に、毎日一章ずつ読んであげていました。読み終わると、子どもたちは、必ず本の始めに付いている地図を広げ、エルマーとりゅうの子がどこに今いるのかを確認していました。初めての長い話の読み聞かせでしたが、楽しんでいることがよく分かり私もうれしかったことをよく覚えています。この後、エルマーシリーズは、全て子どもたちと読んで楽しみました。娘は、長編への抵抗が少なくなったのか、いろいろな本へ手を伸ばすようになりました。私たちにとって、素敵なきっかけをくれた大事な一冊です。</p>
私		おば	<p>【エピソード】</p> <p>私が小学生の頃、おばからもらった本が「花さき山」でした。</p> <p>年の離れた妹が生まれ、何となく寂しかった私の心をこの本がなぐさめてくれました。それに、おばが私のことを気づかせてくれたことが嬉しかったのを覚えています。あれから、もう何十年もたちましたが、今でも落ち込んだり、つまずいたりすると、この本を開きます。</p> <p>何度読んでも、私の心をいやしてくれる大事な宝本です。</p>

母



子

【エピソード】

結婚して初めての子どもができた時、出産祝いにいただいた本です。あまり絵本を読むことのなかった私ですが、これを機に赤ちゃん絵本をよく読むようになりました。息子も興味をもち、よく読んでいました。絵と穴をじっと見てさわる息子がかわいかったのを覚えています。保育園で「はらぺこあおむし」を出し物で行ってからというもの、歌いながらページを開き、その時のことを楽しそうに話してくらます。今では、私に読んでくれます。思いのこもった一冊です。

書名 はらぺこあおむし
著者名 エリック・カール/さく
もりひさし/やく
出版社名 偕成社

母



子

【エピソード】

この本は、おとうとがうまれてくるまえに、おかあさんにもらった本です。しゃしんをみながら、おとうとも、こんなふうにもまれてくるんだな、とたのしみでした。本のあかちゃんをみながら、おとうとがうまれてきたかおににているな、とおもいました。

書名 うちにあかちゃんがうまれるの
著者名 いたうえみこ/文
伊藤泰寛/写真
出版社名 ポプラ社

母



子

【エピソード】

姉が読んでいた「わすれられないおくりもの」。息子が年長さんの頃から、読み聞かせています。物知りのアナグマさんが、お友だちにたくさんのお話を教えてくれて、亡くなっていきます。今、息子は、年老いた祖父に習字や昔の話をたくさん教えてもらっています。元気なうちに、祖父との思い出や知恵をいっぱい心に蓄えて欲しいです。

書名 わすれられないおくりもの
著者名 スザン・パーク/さく・え
小川仁央/やく
出版社名 評論社

母



子

【エピソード】

私が初めて親元を遠く離れた時に出会った本。なんの見返りもなく、おしみなく、愛情を与えてくれる木が、まるで自分の親のようだと思い感動して号泣しました。でも、今自分が親になってみて、無条件に愛を与えてくれるのは、親ではなく子どもの方で、「欠点だらけの私のことをそのまま丸ごと体当たりで愛してくれる子どもに感謝。」と気付かせてくれた宝物（宝本）です。

書名 おおきな木
著者名 シェル・シルヴァスタイン/作
村上春樹/訳
出版社名 あすなろ書房

母



子

書名 はらぺこへびくん
著者名 みやにしたつや/作・絵
出版社名 ポプラ社

【エピソード】

この本は、ぼくが保育園の時に会った本です。
はらぺこへびくんが、おさんぽ中になんでもぼくばく食べちゃうところがおもしろくて、大好きでした。お父さんとお母さんと交代で、「はらぺこへびくん」になりきって、くり返し読んだぼくのうちの宝本です。この本は、ぼくにとって、大切な本です。

母



子

書名 妖怪アパートの幽雅な日常
著者名 香月日輪/著
出版社名 講談社

【エピソード】

私と息子の宝本は、「妖怪アパートの幽雅な日常」です。全十巻、一冊200ページ以上ですが、1時間で読んでしまうほど夢中で読める本です。中学生の息子が図書館の先生に薦められて読んだ本で、自分もすっかり夢中になって読むほど面白かったです。息子と本の内容の話、登場人物の話、時折出てくる倫理など登場人物の人間性も素晴らしく、息子との会話が増えました。最終巻は、大泣き、感動でした。息子がこの本の主人公のような素敵で大人になってくれたら、とても嬉しいです。

私



子

書名 風の館の物語4
著者名 あさのあつこ/著
山田J太/絵
出版社名 講談社青い鳥文庫

【エピソード】

自分が落ち込んでいる時や、自信をなくしたとき、この本を読むと、「主人公の洵もがんばって、たたかっているんだ。」「自分も洵みたいにがんばらなくっちゃ。」と思えます。
落ち込んでいる時も、自信をなくした時も、この本を読めば前向きになれる。この本を読み終わったら、気持ちもすっきりするし、勇気をもらえます。この本は、私の宝本です。

母



子

書名 バムとケロのそらのたび
著者名 島田ゆか/作・絵
出版社名 文溪堂

【エピソード】

小学校高学年、高校生、大学生と成長した私の甥っ子たちからもらったおさがりの絵本。毎晩の読み聞かせで、毎回この本を選ぶ息子。毎回読んでいるうちに、バムとケロのキャラクターの愛らしさ。細かく描かれた絵に、夢中になってしまいました。幼稚園での絵本借り日に、「バムとケロに別のお話があったから、借りてきたよ。」と自慢げに帰ってきたこともありました。バムとケロが二人で作る飛行機、小屋、パンケーキ・・・。毎回、のぞきこむように読んでいます。私も息子も何かを作ることが大好きなので、読むたびにわくわくしています。私たちの創造意欲をかきたててくれる宝本です。

母



子

書名 ハリー・ポッターと炎のゴブレット

著者名 J. K. ローリング/作

松岡佑子/訳

ダン・シュレスインジャー/画

出版社名 静山社

【エピソード】

毎日、少しずつ読んで聞かせました。
クライマックスのところでは、一章を一晩で読み、次の章も読んで欲しいとせがまれました。寝る時間が遅くなることもありました。親子でハラハラ、ドキドキしたり、ハリーの勇気に感動し、その場面について感想を言い合ったりしました。
一生の宝物になる時間を与えてくれた大事な一冊です。

先生



生徒

書名 プリンセス・トヨトミ

著者名 万城目学/著

出版社名 文藝春秋

【エピソード】

新任校に赴任して一年目。3年部に配属されました。3クラスとも元気で明るい生徒が多い学年でした。
卒業が迫り、最後の授業。あるクラスから色紙をもらいました。その中に普段は目立たない、落ち着いた男子生徒のメッセージがありました。「先生の授業で紹介された『プリンセス・トヨトミ』を読みました。万城目学の本が好きになりました。」
書店もない町で、わざわざ買って読んでくれたそうです。自分が紹介したことで、好きな作家や本が増えるきっかけになったこと、そしてその子の感性と行動力が嬉しかった思い出の本です。

母



子

書名 いいおかお

著者名 松谷みよ子/文

瀬川康男/絵

出版社名 童心社

【エピソード】

息子が小さい頃、家で絵本を読むと「次はこれ！」と本棚からよく持ってきたのが「いいおかお」の絵本。
文章の中の「いいおかおをしました。」というところで息子の顔を見ると、絵本に描かれているふうちゃんやネコ等と同じようないいおかおをして、絵本の続きを楽しみにしていました。
この本は、息子とのゆったりと過ごしていた時間を思い出させてくれる宝本です。

母



子

書名 あなたがだいすき

著者名 リザ・ベイカー/作

デビッド・マクフェイル/絵

日当陽子/訳

出版社名 フレーベル館

【エピソード】

我が家の息子は、元気いっぱいといわゆる“きかん坊”です。息子が幼稚園の年少組の時、育児に行き詰まっていた私は、息子を「嫌い」とさえ思っていました。そこへ幼稚園からの希望購入絵本の中に「あなたがだいすき」がありました。そのタイトルに心ひかれ、購入しました。「どんな時でも、何をしている時でも、あなたがだいすき」という絵本に、改めて子どもの大切さを感じ、同時に成長の喜びも感じられました。
息子も照れながら、喜んで読んでいます。

母



子

書名 ぼく、仮面ライダーになる！オーズ編
著者名 のぶみ
出版社名 講談社

【エピソード】

二人目の妊娠がわかった頃、親戚の方にプレゼントされた本でした。「妹、アンちゃんに対する兄かたろうの気持ちの変化・成長」をテーマにしている、「なんてタイムリーなんだ。」と驚いたことは今もはっきり覚えています。それから、息子の仮面ライダー好きもあり、毎日のように「読んで。」とせがまれるようになりました。そのうち内容を覚えてしまって、自分でも絵を見ながら声に出して読んでいました。「なんたろう」を息子の名、「アンちゃん」を赤ちゃんと呼んでいたことも大切な思い出です。元気に生まれ、成長した妹に優しくできているのは、きっとこの宝本があったからだと信じています。

母



子

書名 ねずみのよめいり
著者名 岩崎京子/文
二俣英五郎/画
出版社名 教育画劇

【エピソード】

この本とは、年長になってから出会いました。お話は知っていましたが、初めは興味がなかったのです。でも、年長の時の生活発表会の劇で、この「ねずみのよめいり」をする事になりました。ぼくは、壁の役を一人でやりました。大勢の人の中で、台詞を言うのが恥ずかしくて、小さい声しか出なかった事や、心臓がドキドキしたことを覚えています。この本を読むたび思い出しますが、今ではよい思い出です。

母



子

書名 うずらちゃんのかくれんぼ
著者名 きもとももこ/文・絵
出版社名 福音館書店

【エピソード】

この本は、ぼくがまだたくさんおしゃべりができないころによくよんでもらいました。いろいろなところでうずらちゃんがかくれているのをさがして、ゆびをさしてよろこんでいたそうです。そんなぼくをみて、おかあさんはとってもうれしかったそうです。だからこの本は、ぼくとおかあさんがえがおになるいっさつです。

母



子

書名 スイミー ちいさなしこいさかなのはなし
著者名 レオ＝レオニー/作
谷川俊太郎/訳
出版社名 好学社

【エピソード】

初めて小学校の授業で読んだときには、とても感動したことを今でも覚えています。あれから長い年月が経ちましたが、子どもの時代にも大好きな「スイミー」が授業で使われていることを嬉しく思いました。よい本は、読み継がれていくのだなと思いました。小さくても、力がなくても、知恵と勇気を出して、困難に立ち向かっていけば、明るい幸せな未来がきっと待っていると思わせてくれる一冊です。豊かな心を育ててくれた大切な本です。

(団体取組の部より)



図書委員会によるエプロンシアター



PTA 読書委員会による「夏のお話会」

伊津部小学校では、毎月23日の「子ども読書の日」に合わせ、昼休みに図書委員会の子どもたちが中心になって、読み聞かせ、紙芝居、エプロンシアターなどでお話の紹介を行っています。

また、6月には、PTA読書委員のメンバーで「夏のお話会」を実施しました。季節にあったお話を、大型紙芝居、パネルシアターなどで紹介しました。最後は、それぞれ短冊に願い事を書き、七夕飾りにつけました。

今後も、学校・家庭・地域が一体となり、楽しく読書ができる取組をしていきたいと思ひます。

市町村 奄美市

所属名 伊津部小学校



霜出小学校親子読書会「けやきの木もれ日」では、年3回の各教室に入る朝のさわやかタイム時の読み聞かせと、新入生歓迎会、クリスマス会、六年生を送る会、夏休みのプール開放休憩時の読み聞かせ、教育週間中の音楽鑑賞時の読み聞かせ等の活動を行っています。イベントの際は、給食時間に放送で呼びかけをしてもらい、ほとんどの児童が図書室の自由スペースに集まり、ブラックシアター、手遊び、クイズ、読み聞かせ、合唱等を楽しんでいます。読み聞かせの際は、静かに目を輝かせながら聞き入れてくれ、読書クイズは元気よく答えてくれ、合唱は練習をしなくても大声で歌ってくれ、親子読書会に親しんでもらえているという実感がわいてきます。今後も会員の減少という課題はありますが、子どもたちが読書を身近に感じてもらえるような取組をしていきたいです。

市町村 南九州市

所属名 霜出小学校



保護者の読み聞かせ研修会



先生方によるお楽しみ読み聞かせ



丹波小学校では、毎月23日を読書の日としています。宿題が読書になるので、みんな、家庭で本を読み、心に残ったことをカードに記録しています。また、毎週木曜日の朝は、クラスの保護者の方が「読み聞かせボランティア」として、教室に入って読み聞かせをさせていただきます。さらに毎月1回、昼休みに「丹波おはなし会」が開かれます。読み聞かせやペープサート、紙芝居など、各クラスの保護者の方々が工夫を凝らしたおはなし会で、たくさん子どもたちが集まります。毎年6月には、保護者対象の読み聞かせ研修会を行っています。今回、夏休みに「わがやの宝本」を募集したところ、たくさんの応募がありました。家庭での読書熱が高まっているようです。

1学期の読書旬間には、図書委員会が1・2年生の教室に行って読み聞かせをしたり、図書室でいろいろなイベントをしたりして、たくさん子どもたちが図書室に来ました。2学期の読書旬間には、「クラスの宝本」の紹介や、おすすめの本を友だちやほかの学年の人に紹介する「読書郵便」、校長先生や担任以外の先生方の「おたのしみ読み聞かせ」を計画しています。

市 町 村 指宿市

所 属 名 丹波小学校



阿久根市立山下小学校では、「山下っ子ノーメディア親子読書デー」と称して、毎月23日を親子読書の日に定めています。その日は、特別に宿題が少なめになり、じっくりと親子で読書の時間を楽しみます。

夏休みは、月1回の親子読書の日に加えて、「宝本」エピソードを課題にしました。

9月の2回目の図書タイムの時間に、クラスみんなに大切な「宝本」を紹介すると、「その本私も好きな本だ!」とか「ぜひ、読んでみたい!」などいろいろな感想が出ました。また、「宝本」が親子で本にまつわるエピソードを話すきっかけにもなったそうです。一冊の本にこれほどの思い出があるのかと感動しました。

これからも、本を通して親子の絆・友情・豊かな心を育むお手伝いのできればと思います。

市 町 村 阿久根市

所 属 名 山下小学校



阿久根市立田代小学校では、全校で行う仲良し読書、家庭で行う親子読書を柱に、毎週木曜日の読書タイムでいろいろな読書活動を行っています。

今年度は、夏休みに「宝本」探しに取り組み、自分と本のつながりについてまとめさせました。家族とのエピソードや、自分自身のお気に入り、お見舞いにかけてうれしくて何度も読んだ本など、一冊の本がたくさんの思い出の中で子ども一人一人に大切にされていることに驚きました。そこで、図書タイムの時間に友達に「宝本」とエピソードを紹介する活動をしました。一人一人、はにかみながら発表し、最後にみんなで宝本を見せ合いました。大事な宝本を心配そうに見ている子どももいましたが、みんな目をきらきらさせて友達の本を見せてもらっていました。本は、どんな形で子どもたちにとくさんの喜びや幸せを与え、心に小さなあかりを灯すかわかりません。その子どもにとっての大事な一冊が増えるよう、素敵な本を手渡しお手伝いできればと思います。

市町村 阿久根市 所属名 田代小学校



中津小学校では、図書委員会のメンバーが毎日の図書貸出や本棚整理、読書週間における紙芝居発表等を積極的に行っています。また、各学級でも担任だけでなく、校長先生をはじめ全職員で読み聞かせに取り組んでいます。

読書指導担当及び司書補の先生方を中心に、季節に応じた図書室の設営や学年の発達の段階に応じた図書案内コーナーを設置し、毎月読書量調べも行います。本校では、100～300冊の個人目標を設定して読書を行っています。

保護者の方々にも家庭での読書に力を入れていただき、毎年期間を設定して各学級に読み聞かせに来ていただいております。大型紙芝居やエプロンシアター等、それぞれとても趣向を凝らした楽しい読み聞かせをさせていただきます。また、幼小合同の家庭教育学級でも毎年読書指導を設定し、外部講師による読書シアターと読書に関連した子育て教育講演会を開催し、ふるさと甕島の物語も数多く紹介していただき、ふるさとを愛する心を育てています。

市町村 薩摩川内市 所属名 中津小学校



地元の小学校で、月に一度読み聞かせをしています。
3月には、卒業生に向けて絵本を土台として劇をしました。曲に合わせて動いたり、先生方や子どもたちも参加できるように工夫したりして、卒業生の心に残るような演出を心がけました。
している側も見ている側も楽しめ、笑いが絶えませんでした。
これからも、私たちのしてきたことが、子どもたちの心のどこかに残ってくれると嬉しいです。

市 町 村 枕崎市

所属名 読み聞かせグループのはら' S

